



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 感謝、感謝の70年、そして、お礼奉公のこれから

講演：岡本 和久

私は2016年12月14日で70歳となりました。昔なら「古来、稀なり」ということなのでしょうが、あまり実感はありません。ただ、振り返ってみれば本当にたくさんの方々のおかげで今日がある。最近、思うのです。自分っていったい何だろうって。いま、思うのは自分とは、自分以外のすべての存在そのものなのだろうと思っています。

たまたま、本多静六先生の人生計画総括表と出会いました。これは本多先生が25歳の時に立てた計画だそうです。20代でこのような計画を立ててその通りに生きるとはすごい一言です。

| 期名 | 年齢 | 目標 | 実生活 |
|---|----------------------------------|---------------------|-------------------|
| 第一：教練期 少年期(教養) 青年期(練成) | 6~20 6~15 16~20 | 人間らしく働くための準備 | 三節：食、性、眠の三欲を制す |
| 第二：勤労期 少壮期(働き盛り) 中壮期(分別盛り) 大壮期(知能盛り) | 21~65 21~35 36~50 51~65 | 身のため、国のため働き、名利を蓄積する | 三多：多学、多働、多施 |
| 第三：奉仕期 初老期(お礼奉公時代、感謝時代) | 66~85 | 名利に超越して世のため、人のために働く | 四慎：慢心、贅沢、怠惰、名利を慎む |
| 第四：楽老期 中老期(指南時代) 大老期(無為化時代) | 86~ 86~105 106~ | 勤学併進努力 道楽の晩年を楽しむ | 四快：快働、快食、快眠、快通 |

新人生訓と人生計画表（1949年刊 大日本山林会・帝国森林会に掲載されたもので、本多先生が25歳の時に立て、この通りの人生を実践した。平成28年度企画展 本多静六生誕150年展資料より）

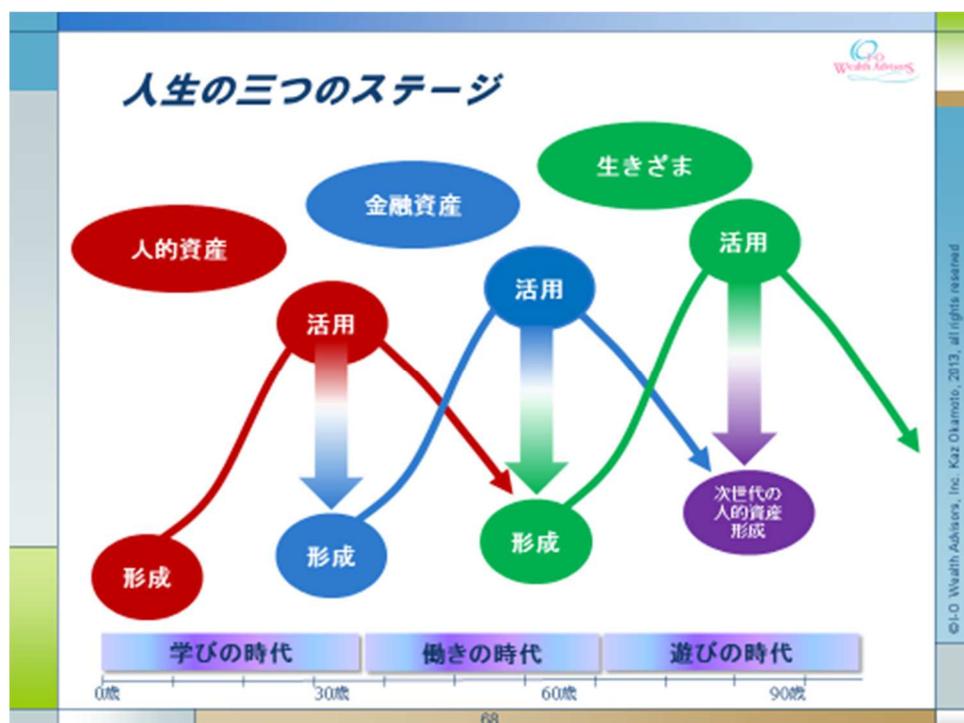
© I-O Wealth Advisors, Inc. Kaz Okamoto, 2013. all rights reserved

私自身、これまで人生には三つのステージがあるとみなさんにお話してきました。学びの時代、働きの時代、遊びの時代です。私は現在、「遊びの時代」にいる訳ですが、私の言う遊びの意味は観世音菩薩の遊びです。観音経の一節に「観世音菩薩は、いかにしてこの娑婆世界に遊ぶや いか



長期投資仲間通信「インベストライフ」

にして衆生のために法を説くや」とあります。とてもそこまでは行けそうにありませんが、やはり今まで自分が学び体験してきたことを世のため、人のために役立てたいと思っています。本多先生が66歳から85歳を奉仕期(お礼奉公時代、感謝時代)と位置付けておられるのを知って「我が意を得たり」という気持ちでした。



2012年に胃がんが見つかり胃の三分の二を摘出しました。若干、転移があったため、その後、3年間、抗がん剤治療を続けました。2015年の秋ようやくそれが終わったのですが、2016年の春先から体調がすぐれず、神経内科の診断を受けたところ重症筋無力症という難病であることがわかりました。現在も薬で治療を続けています。おかげさまでようやく体調も戻りつつあることを実感できるようになりました。この二つの病のおかげで色々と学ばせてもらえました。

人間、必ず死にます。その点について不確実性はありません。ですから、死はリスクではないのです。また、いま、この瞬間、生きている。これも確かです。リスクはこの「生きている」という状態がどれだけ続くかという点にあります。しかし、これはコントロールできないことです。

私の好きなこんな言葉があります。これは資産運用にも通じる知恵です。
「神よ、私を変えることのできないことを受け入れる冷静さを、変えることのできることを変える勇気を、そして、それらの違いを判断できる知恵を与えたまえ」 (ラインホルド・ニーバー)



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

要するにいま、できる最善のことをやり続けていくことが良い生き方に通じる唯一の道なのだと思います。遊びの時代、お礼奉公の時代、私は次の三つを基本として生きていきたいと思っています。

まず、**プロ・エイジングな生き方**をしたいということです。人間は生まれてから死ぬまでが進化のプロセスです。アンチ・エイジングとよく言いますが、これは進化に逆行するむなしい努力です。エイジングを受け入れる生き方こそ進化に沿った生き方だと思うのです。ただ、働きの時代と遊びの時代では進化によりでてくる力の種類が変わります。働きの時代の力は行動力です。私は遊びの時代の力を「存在力」と呼んでいます。つまり、何もしないで、存在するだけで、周りに良い影響を与える、そんな力をつけていくのが遊びの時代です。私はこれから行動を減らしていきたいと思っています。その分、その行動に込める想いを濃くしていきたい。「行動は半分に、行動に込める想いは四倍に」というわけです。

二番目の基本はすでに述べた**お礼奉公**です。少しでも世の中の役に立つことをしていきたい、人々を笑顔にしていきたい、そして、後世のためになることをしていきたいと思っています。そのような活動の第一歩として二つのことを始めました。まず、明治大学に寄付を行い、商学部の三和裕美子教授に代表となっていていただき株価指数研究所を設立させていただきました。設立の趣旨の一部をご紹介します。

設立の趣旨

- 本研究の目的は、わが国株式市場創設時からの連続した株価指標について研究し、歴史的に統一した株価指数をつくることである。
- 株価指数はその国の経済の状況を表すものであり、資本主義の発展と密接に関係する。しかし、明治時代から存在するわが国株式市場は、ニューヨーク、ロンドンに並ぶ時価総額を誇っているにも関わらず、連続した株価指数が存在しない。
- このことは株式市場にとっても、日本経済の歴史においても問題である。そこでわが国の株式市場、ひいては資本主義の発展段階を示す指標として連続した株価指数をつくることは重要な課題であると考えます。(以下略)

日本には1878年から株式市場での取引が行われています。しかし、本当に残念なことにデータがきちんと整備されているとは言えません。いま、歴史的なデータを収集しておかないと益々、それが困難になります。数年かかる作業になると思いますが、すでに明治大学内にすでに研究室もでき、学生さんのアルバイトをお願いして古い資料からのデータ集めが始まっています。板谷敏彦さん、平山賢一さん、山口勝業さんなどもプロジェクトにブレインとして参加していただいています。これは私が大変、お世話になってきた証券市場への恩返しです。



もうひとつの社会貢献活動は「超越瞑想普及を支援する会」の設立です。私も妻も瞑想を20年以上続けていますが、特に超越瞑想と出会って、それを実践してきたことは人生の上で非常に大きな意義を持つものでした。証券市場、資産運用というストレスの多い環境のなかで何とかやることができたのも瞑想のおかげが大きいと思っています。超越瞑想は宗教とは全く関係のない心を扱う技術です。そして、定期的に瞑想を続けることで静寂さが心に染みわたり、いつも落ち着いた活動ができるようになりますと言います。私もある程度ですがそれは実感します。そして、とても素晴らしいことにこの瞑想を実践する人が人口の1パーセントを超えるとその町の犯罪率が明らかに減少すると言います。世界の多くの人が正しい瞑想をしてくれることは世界平和への道でもあります。

今回設立した会では超越瞑想を学ぶための受講料を奨学金として出そうというものです。金利も返済も不要です。これは妻と私を支えてきてくれた超越瞑想へのご恩返しです。詳細は以下のホームページをご覧ください。





<http://tmersupport.wixsite.com/home>

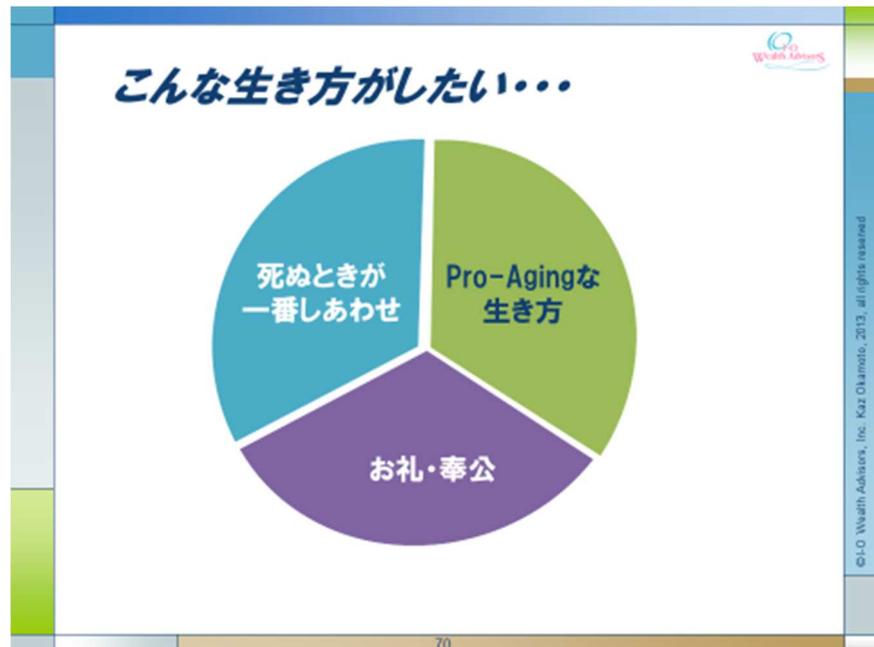
超越瞑想普及を支援する会 (TMer Support Association)

超越瞑想(TM)普及を支援する会(TMer Support Association - TMSA)は超越瞑想を初めて学ぼうとする方に受講料の一部を奨学金として提供し超越瞑想の普及を支援しようという目的で設立された任意団体です。

超越瞑想(TM)についてはこちらのサイトをご覧ください。⇒ [超越瞑想について](#)

Home News & Information 手続き 主催者プロフィール 規約

さて、三番目の行動の基本は「しあわせ持ちの死に方」というものです。毎日、毎月、毎年、いつもすべてのものに「ありがとう」、「ありがとう」と感謝を続ける。みんな、背中に「しあわせ袋」を背負っているのです。そして、毎日、毎月、毎年、背中の袋に「今日もしあわせだったな、ありがとう」という気持ちを入れています。まさにしあわせの積立投資です。これをずっと続けていけば死ぬとき、袋が人生で一番満ちているはずです。つまり、死ぬときが一番しあわせなのです。そんな死に方をしたい、それが夢です。





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

私が生まれたのは1946年、太平洋戦争が終わった翌年です。まだ、終戦の傷跡がいたる所にありました。私の生家も1945年5月の山の手を空襲されたとき火事になり、父がようやく消火したことを日記に残していました。私の誕生後も台所には焼け跡がまだ残っていました。中学2年の時に転校してこられた英語の先生に私は非常に大きな影響を受けました。英語部も作り放課後、先生を呼んで勉強会をしていました。

その先生が私たちの卒業前、最後の英語の授業のときに黒板いっぱい「Be a Peace Maker!」と書いたのです。これが君たちに伝えたいことだとおっしゃっていました。「平和をつくる人になれ!」というのです。

高校を卒業して入学した大学をすぐ休学しアメリカのコロンビア大学に留学しました。すばらしいキャンパスでしたが雰囲気は何か殺伐としていました。1965年から67年でした。ベトナム戦争がどんどん激化しつつある時期でした。ルームメートが18歳の誕生日を迎えたので「おめでとう」と言ったら「いや、おめでたくなんかないよ。これから徴兵局へ行き、徴兵登録をしなければならないんだ」と言っていました。当時は国民(男性)皆兵制だったのです。いつベトナムに行かされるかわからない、そんな環境のなかで彼らは勉強をしていたのです。その悲痛な叫びがボブ・ディランなどの反戦歌だったのです。毎日のようにTeach-inという集会が開かれベトナム戦争反対派と賛成派が争っていました。

日本に帰ってきたらなんと明るい雰囲気なのでしょう。高度成長が続き日本もどんどん自信を深めていました。反戦歌がかっこいいはやり歌として歌われていました。本当に平和ってありがたいなあと思いつつ、同時にコロンビアの友人たちはどうなったのだろうと考えたものです。その後も私はずっとグローバルな環境のなかで仕事を続けることができました。

私が天から与えられた人生のミッションは海外と日本の間の知識の輸出入をすることだと占星学の先生に言われたことがあります。証券市場では海外の進んだ証券分析や年金運用の手法を日本に輸入しました。いま、和風の企業経営哲学や和風資産運用を海外に広めたいと思っています。ともかく、やはりすべての基本に世界が平和であることがあるのだろうと思います。

中学の最後に英語の先生が黒板いっぱい書いた「Be a Peace Maker!」という言葉はずっと私の心のなかで鳴り響いていました。自分のしてきた仕事が本当に世界の平和に役立ってきたのだろうかと考えていました。結局、気づいたのです。本当に将来の年金受益者のためになる良い運用をすればその人たちの退職後の経済的束縛を軽減してあげることができる。その人たちが笑顔になれる。それが世界平和への小さな一歩なのではないかと気づいたのです。

世界を平和にするのは別に外交官にならなくても、国連に勤めなくてもよい。まず、自分にご縁のある人たちを少しでも笑顔にしてあげればよい。そう思い到りました。瞑想を多くの人ができるよう



長期投資仲間通信「インベストライフ」

にしてあげるのもその一環です。日本の証券市場の研究がさらに深まり日本の資産運用がもっと高度化するのもその一歩でしょう。そのような想いで残りの人生を生きていきたいと思っています。

Be a peace maker!
世界のどこかに悩む人、苦しむ人がいる
未来の子孫たちの苦しみの原因が
いま、発生しているかもしれない
その人たちの感情を「我が事感」をもって感じられるか
意識の時空を広げよう
意識の広がり、それがその人の品格となる
みんなが笑顔になれるように
自分が何をできるか考えてみよう
そして、行動しよう
結局、良い世の中を創るのは我々生活者なのだから
まわりに笑顔を増やすことが世界の平和につながるの
だから
我々は世界をより良くすることができるのだから

©I-O Wealth Advisors, Inc. Kaz Okamoto, 2013, all rights reserved



長期投資仲間通信「インベストライフ」

私のこれまでの70年とこれからの想いを6分の動画(You tube)にまとめました。よろしければご覧ください。

70 Years (+alpha) in 6 minutes



https://youtu.be/bou0phYFX_Q

このYoutubeは上記URLを知っている人のみが見る事のできる「限定公開」に設定されています。

